

FMアップルウェーブ 第134回放送番組審議会

開催日時 令和5年12月12日(火) 18:00~19:00

開催場所 omusubi NICOMARU (弘前市土手町)

出席委員 委員長 佐藤 信隆、副委員長 鳴海 清彦、
委員 佐藤 浩之、渋谷 拓哉、高村 智子、窪野 夏希、加賀 新一郎

会社側出席者 代表取締役社長：一戸 勝美
放送部部長：佐藤 誠、副部長：花田 由香子

議題 (1) 番組に対する意見要望
(2) 次回開催日について 3月9日(土)

議事の概要

○ 各委員が質問と意見や気が付いた点を述べる形で議事が進行した。

1) 課題番組 『ラジオで安心! みんなの防災回覧板』

- ① 防災に関することはあとになって「こうしておけばよかった」と思うことばかりなので、こういった番組は特別番組と言わず、月1ペースで放送してもいいと思うような必要な番組。地域の生の声が聴けた。季節によってあらゆる自然災害が発生するため、放送頻度をあげてほしい。
- ② 大事な内容でいい番組。弘前市の防災課長が出演していたが、紹介していた市の対策には疑問しかない。防災無線は聞こえず、アプリは高齢者が使いこなせず、町会単位の行動にも限界があるなかで、行政の意識の低さを感じた。いのちを守るのは自分だが、行政には「いのちを守る」という意識で対応してほしい。
- ③ 防災の話、リスナーの声、町会の声と、番組構成の全体のバランスが良い。町会の声は行政に対する怒りもこもった意見がリアル。防災対策は災害が起こる前にやるべきことなので、こういった番組を聞いたときに個人個人が対応していきたい。行政にはこれらの意見を伝えて、その後「どう改善されたか」も確認してほしい。
- ④ 地域の生の声が聞けてよかった。行政の声や町会の方の声がバランスよく取材されており、インタビュー後にはパーソナリティが要点をまとめて繰り返しているのが良い。豪雨の際に被害を受けた農家の声があっても良かったのでは。ひとりで進行しているのでメリハリに欠けると感じた。オープニングのBGMはトークが始まるまでが長かった。今回は大雨がメインだったが、やはり地震に関しても取り上げてほしい。
- ⑤ 防災の要は町会や学校。宮城などでは防災に関する教育、防災の授業が手厚い。アップルウェーブでも防災を学べる取り組みを行っては。行政の話は子どもたちが聞いても何も伝わらない。血の通った取り組みを行うべき。役所が発信することはなかなか伝わってこないなので、現在行われている、使える防災対策はアップルウェーブで広めてほしい。
- ⑥ 毎年防災特番が課題番組になり聴いているが、毎回自分の中での防災に関する情報がブラッシュアップされる。町会の声は自分たちのリアルな経験から感じた行政への不満がしっかり伝わった。いろんな立場の人たちと、市役所は討論会などで意見公開をするべき。同じ地域の人たちがとった行動を、いざ自分ができるのか、など考えさせられた。
- ⑦ 9月1日が防災の日ということを、どれだけの人知っているのか。関東大震災から100年のこの日に特番を組んだのは素晴らしい。パーソナリティのトークの間の取り方が上手く好感が持てる。防災士の資格のあるパーソナリティなので、防災課へのインタビューではもっと突っ込んで話を聞いてほしかった。大雨の日、アップルウェーブを聞いて行動したという話をしていたのも良かった。

【審議機関の答申または改善意見の公表】

- 1) 議事録を本社に配備し、社内各部署に配布
- 2) FMアップルウェーブのホームページに掲載